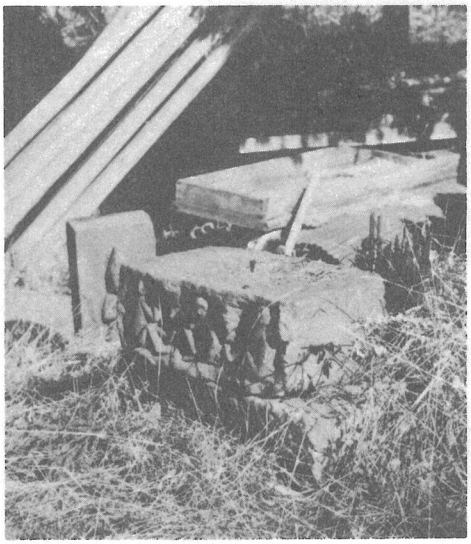
横芝の碑（その九十九）

木戸台・矢部田の庚申様

町原が木戸台の一部である。そんな風に誤解していた私は、町原の庚申様に町原村と刻まれていて木戸台村と町原村が全く別のものであったことを知った時、率直にいってびっくりしました。

〝横芝の碑〟については、皆様方からいろいろご協力を頂いておりますが、特に庚申様のことについてのご連絡やご指導を頂いております。私も私なりに皆様方のご協力に応えながら勉強させて頂き、昔の村落毎の総てにわたってシリーズ的にご紹介を続けてまいりました。お陰様で寺方と両国新田を残しては、殆んどご紹介が終ったものと考えていた矢先だったのです。両国新田は近世に於幾の人が開田されたということなので、於幾の庚申様を信仰したもの、また、寺方は字名が示す通り寺院が多かったので、庶民の中に庚申信仰が浸透しなかった等のことが推測されますが、木戸台の場合はそうした理由が見当りません。きっと何処かにある筈と考えましたので、それなりの探訪を始めました。そのうちに、大総地域の庚申様の多くは昔の道筋にゆかりのある場所に建っていることに気が付きました。木戸台には、木戸台というよりは、この近隣でも珍らしい昔の形を残した道標が建っている矢部の辻を訪れて見ました。ここは、昔の木戸台入口で、天保十一年（一四八〇）、明治二八年（一九八五）明治四四年（一九一一）の各年に建立された石の道標が建っています。（シリーズその九＝四八年六月参照）道標を取材した時には桜の古木や笹籔に囲まれていたので気が付きませんでしたが、今は桜も笹群も伐り払われていて、丁度庭園に造られた小山の様な塚が姿を見せていました。その上に横五〇cm、縦二五cm位の台座らしい石がありました。周囲の障害物を取除いて見ますと、それは紛れもなく庚申様の台座で、正面には三匹の猿の姿が刻まれ、側面には、大木某、菅沢某、桜井某等の氏名が刻まれていました。台座があるのですから、本体もある筈と思いましたので辺りに散乱している石を調べて見ますと、塚の裾にうつ伏せの形で転がっている庚申本体が見つかりました。

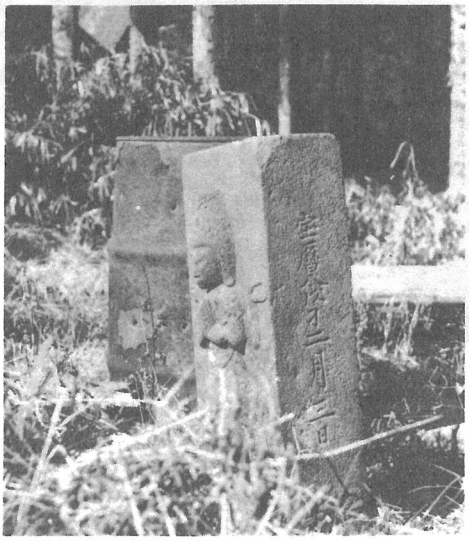


▲（1）
台座の向こう側に、主導本体が見えます。

庚申様は、比較的多く見かける青面金剛を主尊として正面に、側面には、宝暦八戊刁二月三日、と刻まれています。建立者名称が見えないのは、やはり台座に刻まれている人名が建立者だと思います。

尚、〝刁〟という字画は多分年と読むのだと思います。前に町原の庚申様をご紹介の時「農協事務所の辺りから、牛熊と木戸の村境を通る昔の道筋がある」と申し上げたことがありますが、ここには、数多い昔の道標等が建っていることからも、昔は、牛熊、角田、木戸台の分岐点であったものと思われます。

◎写真(1)は、木戸台の庚申様で、手前に見える背の低い石像が台座で、三猿の両側の二匹が内側を向いているのがよく判ります。台座の向側に、半分姿を見せているのが主尊本体です。(2)は、主尊本体で戌と二月の間の〝刁〟という刻字が由緒あり気です。この庚申様の本体は、うつ向きに倒れていたのを押立てて撮りましたが、倒れていたことに何か理由があったのかもしれません。また、一旦起したのが倒れて負傷人が出ては？等と考えましたので、再びもと通りにしておきました。



▲（2）
宝歴八……という字がはっきり読みとれます。

横芝町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿